

対象畜種

豚

協議会構成員

株式会社山形ピッグファーム、農事組合法人山辺アグリFF、北日本くみあい飼料株式会社、株式会社山形県食肉公社、山形県村山総合支庁産業経済部農業振興課／農業技術普及課、山形農業協同組合営農経済部営農指導課／畜産課／北部営農センター、山辺町産業課

飼料用米生産面積

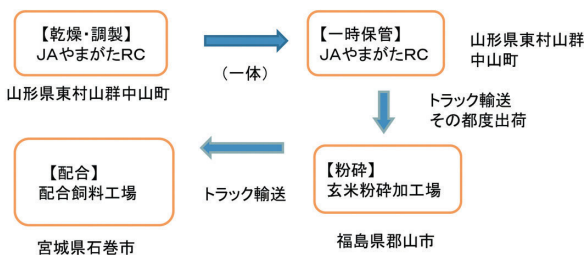
4.7ha

供試品種

はえぬき 4.7ha

取組内容

①飼料用米の流通、保管、調製に係る実証調査



- ◆主食用米との区分を図るため、生産者は新規需要米取組計画認定者に限定した栽培。
- ◆収穫物はライスセンターに全量集荷。
- ◆JA倉庫から粉碎工場までの移送は、飼料会社の手配により確保し実施。

②飼料用米の給与による家畜・畜産物への影響調査（畜産物の成分分析を含む）

試験設計：配合飼料に5%配合。肥育豚に対して肥育後期105日齢から出荷まで給与。

調査項目：飼料用米を配合した供試豚とレギュラー豚について、1日当たり増体重、飼料要求率の調査（山形ピッグファームが実施）及び食

味試験を行った。試験期間の短さと飼養環境が異なるため、単純に比較はできないが飼料による差は認められなかった。

③飼料用米を利用した畜産物の普及活動

- ◆飼料用米解説のパンフレット作成
- ◆飼料用米使用豚肉の名称公募
- ◆飼料用米フォーラムの開催及び飼料用米給与豚の試食会等

取組によってわかったこと

1. 調製・保管・流通について、次のことがわかりました。

- 玄米粉砕加工場までの移送は、破袋等の事故もなく実施できました。
- 異品種混入防止のため、不特定多数による生産は難しいと思われまます。

2. 家畜・畜産物への影響について、次のことがわかりました。

- 発育に特段の差は見受けられませんでした。
- 食味試験を実施したところ、参加者からは飼料用米給与豚がおいしいとの意見が数多く出されました。
- 脂肪融点及びリノール酸の値がやや低下しました。

3. 普及活動について、次のことがわかりました。

- 豚肉の名称を公募したことで、広く消費者一般からの関心を得ることができました。
- 地元産の飼料用米で育てた地元産の豚肉を、地元を中心とした地域で消費するという地産地消を実践しています。

4. 今後の飼料用米の取組予定などについて

- 引き続き、飼料用米の振興を行う。
- 平成21年度は専用品種「べこあおば」を直播で7.1ha作付している。低コスト生産工程の検証を行う。
- 豚肉取扱店舗について、町外への拡大を図る。

株式会社山形ピッグファーム 専務取締役 阿部 秀頭
農事組合法人山辺アグリFF 代表理事 会田保兵衛
北日本くみあい飼料株式会社南東北支店山形営業所 所長 鈴木 稔
株式会社山形県食肉公社営業二部 部長 遠藤 幸士
山形県村山総合支庁産業経済部農業振興課農産振興担当・畜産振興担当